

特116

124

帝國食糧問題解決の鍵



始



特116

124

帝國食糧問題解決の鍵

目次

総論

被害田より上田以上の大収穫を得らる、事に就て

目下内地に於て食米一千万石内外の不足を生ずるのは五百町歩以

内の被害田に補助金を映へぬからである

外米四百万石の代金にて國家重大の食糧問題も速かに解決

し尚十億圓近きの國富をも増す

外國へ四五年後には一千万石乃至五千万石を繼續して輸出す

ること必す出来る

被害田に機械力を應用して居る箇所の収穫高視察の状況

今後不肖の説を實行したならば我邦は忽ちにして屯田を凌ぐ大

有福となる

パン食外人我日本米を食するに就て輸入する大金の精算不肖には出来ず

一億五千万圓の食糧債券発行此の債券は國民生活及び國家の一大安定

大正 15. 6. 23 内交

を計る最も大切なる資本の債券である……………二九
 食糧債券發行此債券は十億圓以上二十億圓の大金を年々輸入する
 大切なる資本の債券である依て發行飛ぶが如し……………三〇
 被害田八十万町歩に四五年の短日月に機械力を應用するに就て……………三一
 補助金一ヶ年に僅か一千三百五十萬圓此補助は十億乃至三十億圓の國
 富を年々増し行く大切なる資本である……………三三
 被害田に機械力を應用すること一ヶ年後くらす時は補助金年割額の
 百倍に相当する大損害……………三四
 驚く勿れ費用僅四千五百圓にて被害田より五万二千石余の大収穫を得たに就て
 旱魃降雨の年に被害を受けり田並に利用し得べき土地に就て……………三九
 古き名所信州娘捨山田毎の月に就て……………四一
 生産と小作爭議……………四一
 米價公定に就て……………四二
 被害田に機械應用其他の事に就て注意……………四三
 結論……………四五

総論

現下我國に於て、速かに解決を要求せらるゝ無数の重大問題中、食糧問題解決の如きは、燃額焦眉の急務に属するものである。

今や我邦の人口は内地に於て已に六千万を突破し、而して年々増加するもの実に七八十万と云はれ居ります。消費する處の米量は、農商務省の調査に依りますと、一人一ヶ年分一石一斗三升となつて居ります。仮に六千百万人としますれば、一ヶ年の消費米量は六千八百九十萬石と云ります。然るに内地米産額を見ますれば、豊作の年に於て六千万石、不作の年に於ては五千五百萬石程度であります。然れば豊年に於ても九百萬石近き不足を示して居り、不作の年に於ては一千三百九十萬石の大不足を生ずるのであります。而して年々人口の増加する大に相當の産米が不足を加へる譯であります。此不足を補ふ爲に年々輸入

入をしい居る、其額本年の如きは朝鮮米四百石、台湾米二
百万石、純外米六百万石以上と示さる。居ります、が朝鮮台
湾にて六百万石を内地に移入するとせば、亦朝鮮台湾に於
て外米二百万石近きを輸入するのべある、さるばば我邦は不
作の年に至りては外米八百万石近きを輸入せねばならぬ
斯る不安の有様であるにも拘りず、之に処するの方策を見
出さず、只已むを得ずとし、成行に任せて居るなりば、内地
が無事であるとし、朝鮮各島及海外の産地に於て、天候
其他の事情に因り、不作か、或は購買し難きか、又は我邦に重
大事突發し不幸一朝制海権を失ないたる等の場合、内地國
民はどうなるであらまいか、在野に誇る大和魂も、鐵血に
は到底敵し難いのである、詰まる処、軍人は戦死人民は金を
御へて鐵死するより道はないのである、是れはありませんか。
昔時享保十七年の飢饉には、七十万人の死亡あり、天明三、四、
五年の三ヶ年に亘りては、実に二百万人の死亡があつ

た、又天保七八年には六十万、余の死亡あり、彼の大阪の與
力大塩平八郎が米騒動を起したの、此の天保八年の飢饉
年である。此等は傳へらるゝ、死の大飢饉である、猶此外小
なる飢饉は数多あり、此等の小飢饉も、凡そ百万人以上の
死亡はありしと思はれる。以上の飢饉年には、木の皮木の
芽草及草の根其他食さるゝもの、は悉く食ひ尽し、遂には小
判を御へて鐵死したる人もあり、其惨状、実に目も當らぬ、
有様ありしとのこと、近くは大正十二年、関東の震災、當
時僅か二三日も米不足の爲め、非常なる騒動ではなかつ
たか。若しも上記の如き非常事變の避け難きことを思ふ
ならば、國家當局者は、勿論國民も食米増収に就て、此俟片時
も捨て置くべきではありますまい。
前に述しが如く、内地人口は目下六千万に及んで居り、尚年
々七八十万人増加を見つゝ、あり、然るに今日内地の僅か
六千万程度の人口に對する食米に、持つが如き状態、
三

あつては、将来我人口が二億五千万乃至二億八千万に増加したる場合に、如何にして食米を與へらるゝのでありましようか。一方貿易は年々輸入超過を重ね、物價は騰貴し人心は委靡す、故に此食米の不安を徹し、經濟の非勢を轉回し人心を作振し、併せて将来我邦總々の大計を立てるには、産業を振興させ、るより外に道はないのである。就中最も解決の急務に属するものは食米である。故に不肖は多年の研究と實地經驗とにより、食米増収解決並に我邦将来の大計を立てるに就て、茲に帝國食糧問題解決の鏡を著したる次第でありませす。之に頼るときは、天下の諸彦米年間頭腦を聯ましつゝある、我邦食糧問題も四五年の内には必ず解決すること疑ひなし。而かも其解決の費用は實に僅少にして、純外米四百萬石輸入する大りの代金あれば充分に足る。斯の如き小資本を以て、國家重大の食糧問題も速かに解決し、実行の曉には其年に右資本金を全部引去りても、尚純

益金三億三千万圓余もあり此の多大なる純益の外、内地朝鮮台湾等を合せて食米一千三百万石以上は、年々外國へ輸出することもある。右輸出米一石当り運賃共四十八圓と見積るときは、是又六億二千四百萬圓となる。然れば解決したる其年より年々十億圓近きの國富をも増す。而已ならず、全國目下の被害田並に開墾干拓したる箇所、に不肖の説を実行する時は、人口二億五千万人乃至二億八千万を突破するも食糧には絶対的に心配はない。尚近き将来には外國へ五千万石を、二百年近き迄繼續して輸出すること、が必ず出来る。之を一石当り運賃共五十圓と見積るときは、二十五億圓の大金となる。此大金も輸出米同様、二百年近き迄繼續して我邦に輸入が必ず出来るのであります。斯の如き大富源を造るが故、食米増収解決に就ては、政府及國民は、瞬時も捨て置くべきに非らず、一日も早く左記不肖の説を實行して、國民生活及國家の一大安定を

計らんことを、不肖は希望に堪へませぬ。

被害田より上田以上の大

何人も最早我邦内地の既成田より、六千二百方石以上の収

獲は絶対を得られぬ様に思ひ居る様でありませぬ。其れ

は大なる間違ひであります、何んとなれば、現在一反歩に付き

三石乃至四石四斗位の大収穫を得て居る上田もあり、又被

害を受け一石乃至二石六斗或は皆無の所もあり、此等の

田も被害を受けざる様設備を完全にしたならば、何人が見

るも、上田同様の大収穫は必ず得らるゝこと明らかである、

其理由を此処に説明せん。

第一 元來我邦は各位も御承知の如く、沖繩縣を除くの外

何れの縣内にも天候に大変動のない限りは、一反

歩より三石以上四石四斗位の収穫を得る上田は必

らずある。然し是等の田は被害田より土質の良き

為め年々大豊作を得るか云ふに、そうではない、被

害田の内にも上田以上の土質の所もあり、又悪い所

もあるが、大概は上田と同質である。其れにもか

はらず、上田だけ年々大豊作を得て居るのは、水の

都合も宜く、且つ堤防其他の設備も完全なる故、各位

は危ぶまずに肥料も充分に施し、田の手入も宜い

からである。其故右様な大豊作を年々得て居るの

ある。又被害田は上田と土質も同様であるにもか

ゝはらず一反歩当り一石乃至二石位の小作を得て

居るのは何故かと云ふに、其れは水の都合も悪しく

且つ堤防其他も不完全の爲め時々被害を受け、依

て肥料も用いず従つて田の手入も悪いからである

。何故肥料も用いず手入も悪いかと云ふに、其は被

害を受け不作を蒙むり皆無の状態に陥りし場合

は、収穫なき上に施こせし肥料代金並に労力等も悉

く損失に帰する故に、危ぶみく肥料も充分に施さず且つ田の手入も悪しき故、右様の小作を得て居るのである。然し時によりは天候の具合も水の都合宜き年もあるが肥料も用いず手入も悪しき故に石以上の収穫は容易に得られぬ。然らば如何にせば被害田より上田同様若しくはより以上の収穫を得らるゝかと云ふに、其れは被害を受けざる様揚排水機械を掘付け堤防並に其他の設備を完全にし、旱魃降雨何れの年と雖も自由自在に揚排水を為す、又機械力にて水の供給出来る田は反別に適当なる井戸を掘り其水を田に供給する様にしたるは各々が之ならず大夫と安心する事、されば危ぶむことなく肥料も充分に施す事にもなり、且つ田の手入も充分になす故に、上田以上一反歩に付き三石乃至四石五斗余の大収穫は必ず得らるゝ様になるの

第二

である。

第三

旱魃の年に被害を受ける田に、揚水機械を應用しあ
るならば、植付け時に当り、如何なる大旱魃に出會つ
ても、自由自在に揚水して、時宜に植付けられ、又植付
け後に於ては、同様に必要に應じ、自由自在に揚水出
来る故に、稲の發育を害することなし。
植付け四日間位前迄田を乾燥し、其処へ肥料を施し、
即時に揚水して耕やし、之に植付けるときは、肥料
は充分効を奏して、稲の發育頗る佳し、こんな自由
なことは、機械が無ければ出来ぬ。
従来は、重みに水溜或は沼の腐敗せし水を供給せ
る故に、害虫発生して、大に稲の發育を妨げられ居
るも、機械力を應用する時は、活水を供給するを以て、
熱病等も発生せず、依り稲の發育佳良なり。
九

第四

第五

旱魃の淺水不足の箇處は大旱魃の年ほど大豊作が得らるゝことに在る、其理由は水の必要を認めし場合は何時にても自由自在に揚水することが出来、且つ土用中に供給する新水は水暖まることに依つて、稲の發育に非常なる効果がある、依て一反歩に付き三石乃至四石五斗余の大収穫は疑ひなきものぞす。

第六

降雨の年に被害を受くる田に、排水機械を應用しあるならば、植付け時に當て田に澤山の水ありて容易に植付けの出来ざる場合に立処に排水し、時期

第七

何時降雨があつても立処に排水するを以て、稲の發育には決して故障がないこととなる。

第八

植付け時、田に澤山の水ある場合には植付ける時機より十二三日間前に腐敗せし水を全部排水し、田

を一度乾燥すること、然る時は害虫は繁殖せず、又植付け二三日前の日當りに、肥料を施こして水を供給し、耕やしく植付けるならば肥料は充分に効を奏する、故に稲の發育良く従て實のり頗る佳い。目下内地に於て食米一千万石内外の不足を生ずるのには五百町歩以内の被害田に補助金を與へぬから

大正十三年五月農商務省の調査を基礎として見ますと我邦内地に水田三百七万五千町歩陸田六万五千町歩合計三百十四万余町歩あり、斯かる田を有する農業國なるにも拘らず、内地に於て年々一千万石内外の食米不足を生じて居る、其原因は何処に在るか、と云ふに、我國は殆んど水田國なる、旱魃の年に水不足に苦しむ、又降雨多ければ水害に患やむ、何れか得心配し大小被害を受くるが例年の事である。

此被害田に前に述べしが如く被害を受けざる様設備を完
全にした曉には各位も御兼知の如く一反歩に一石乃至一
石七斗の被害田より、忽ち三石乃至四石五斗余の大
収穫を年々必ず得らるゝのである。
この被害田に機械力を應用し、大収穫を得らるゝを農村
各位が知つたのは何時頃なるかと云ふに、現在機械力を應
年の頃なりと思ふ、又内地既成水田に現在機械力を應用し
て居る反別は何程あるかと云ふに、大正十三年農務省の
調査に依ると開墾千石及耕地整理したる箇所並に被害田
とを合せて約八万町歩に過ぎず、此内被害田のみは機械力
を應用したる明治二十箇所は極少なく、約八千町歩内ならん
と思ふ。明治二十年より今日に至る迄、実に四十ヶ年も経
過したるにも拘らず、僅か八千町歩しか機械力を應用し、
居らぬ其は各位が機械の効力を知らぬ急めかと云へば、そ
うではな、その原因は金が無いからである、現在の規則で

二二

は政府は二十町歩以上の開墾千石及耕地整理等を急す各
位に對して補助金を與へ、居るも被害田に機械力を應用
する各位に對しては、大正十二年度より五百町歩以上の被
害田に揚排水機械を應用するものに對して補助金を與へ、
る事となり居るも、此補助金は千町歩又は二千町歩あるも容
易に得らぬ様である、是れは假に二千町歩に從來、溜池の
水を供給し、つ、ある箇所が旱魃の年に水不足に付、三分
三、分作或は皆無の年もあり、急め、各位は溜池を廢し、揚水機
械に改めるに當り、政府へ補助金の申請をし、た場合、當
局者は調査の結果、溜池の水を二千町歩へ供給し、其水にて
足らざる反別が六百町歩あれば、之に據り、五百町歩以下
の費用に對しては、補助金を得らぬ様になる、仮りに補助金
を得らば、補助金は、得らぬ様になる、仮りに補助金を得ら
ば、補助金は、得らぬ様になる、仮りに補助金を得らぬ様
を、據り、事出、來ず、又溜池を開墾助成法に依り、補助金

三

を得て開墾する時は、沼池の分だけ補助は得らるゝも、目的
の二千町歩に對しては補助は得られぬ、又各位は政府より
資本を借入れるにも咄嗟の間には合はず、それには確かに借入
ル得るや否やの心配もあり、且つ負担其他の事情に依り容
易に村民の折台付かず、故に機械の据付は意外に後くる、
事となる、又五百町歩以内の被害田は澤山あるも、右様な
規則なれば補助金は容易に得られぬ、而して政府は被害田に
機械力を應用する各位に對しては、資本として低利資金貸
出並に起債認可等の便を與へて居るも、低利資金は一ヶ年
に一ヶ万圓に限りあり然るに借方が年々一億三千万圓乃
至一億六千万圓近き迄なり居る故、申請したる金額の十分
の一にも當らぬ有様である、又起債認可並に低利資金借入方の
申請は縣並に内務大藏兩省及特殊銀行等の手續終る迄には
極く早けれは十箇月、晚けれは二ヶ年も掛ると云ふ有様で
あり、それらも確かに貸出すとは定つては居りぬ、又各位が起

債認可申請中、地方に於て高利の金を借入れ事業に着手
したること政府に知れるときは、忽ちにして起債は却下、低
利資金は貸出さぬ様になる、斯の如き状態になりました場
合には、前に借入れたる高利の急め、先租より傳はりした場
地を人手に渡す様に立ち到るやも計り難いとの心配もあ
る、総てが右様な次第故被害田に機械力を應用すること
容易に出来ず、止なく當にならぬ天候を頼りにして居る内
に、天候の具合で植付け時か或は植付け後に於て水の都合
悪しき急め、大収穫は容易に得られぬ、因て飢饉年も生ずる
こと、なる、今日内地に於て一千万石内外の食米不足を生
ずるもその急めである、然らば如何にせしなら各位が被害
田へ速かに機械力を應用するかと云ふに、それには政府が五
町歩以上の被害田に應用する機械及井戸其他の代金に對
し、政府六割縣に三割合計九割の補助金を與へたならは
農村各位は喜び勇み大方歳を唱へて立処に被害田に機械

力を應用すること疑ひない、然る時は、一反歩に付き一石以
内の被害田も忽ちに三石乃至四石四斗余の大収穫を
年々必ず得らるゝのである、そして此被害田に機械の据付
けは容易く出来、代金は非常に廉價である、且機械を据付
たる其年より、早兎降雨何れの間と雖ども安心して右様の
大収穫を年々必ず得らるゝのである。

速かに解決し、尚十徳園近きの國富をも増す
現在内地の田三、四十万歩の生産力に依りて區別し
一石八斗二升に見積るなら、普通(大正十年より十三年迄の平均)一反歩當り
んと思ふ、此収穫は一反歩當り約二石六斗乃至四石四斗余
之を極内輪に見く三石四斗、此石数八百五十万石、残余の二
百八十九万町余の内、約四十万町歩の収穫二石二斗乃至二
石六斗、之を平均すれば二石四斗、此石数九十六万石、残りの

二百四十九万町歩内、百四十九万町歩の収穫約一石五斗乃
至二石二斗、之を平均すれば一石七斗、此石数二千五百三十
三万石、余り百万町歩は、約一石五斗、甚しき年には皆無の
田もあり、之を平均すれば約一石三斗八升に、此石数
は千三百八十萬石以上を合計するときは五千七百二十三
万石となる、之は平年作の収穫であります。
右収穫二石六斗以内の田に對して、上記の如く設備を完備
したならば、前記良田同様一反歩の収穫二石六斗以上四石
四斗に及ぶ之を平均すれば約三石四斗、されば合計反別に
於て九千八百二十六萬石となる、又上記の被害田に機械を
据付、井戸其他の設備を完全にしたならば、従来の満池は殆
ど不必用となる、此内には忽ちに三石乃至四石となる処は約十
万町歩内外あるならん、此収穫約三百四十万石、之と良田の
収穫とを合計すれば一億九百十六万石となる。
然れとも、目下の不足米を補はんが爲めには、事急を要する

を以て、先づ右收穫最低の被害田一百万町歩の内、設備に日
数を要せず機械据付けたる其年より大收穫を得らるゝも
の八十万町歩に、機械力を應用する時は、此八十万町歩の増
収米一反歩当り約二石二斗外合計に於て一十六万六千石
に上る、斯くして國民にも充分の食米を与へ得るが上に、内
地朝鮮台湾等を合せ、外國に年々一千万石以上は輸出す
ることが出来る。
又被害田八十万町歩全部に機械力を應用する其費用は、全
部に於て総論に述べある如く、外米四百萬石を輸入する大け
の金額は、充分に足る。又輸入米一石当り本年七月時價
運賃共金三十七圓と見積る時は、此代金一億四千八百圓
となる、而して八十万町歩の設備が全部完成した曉の増収
米一十六万六千石内、一千万石は現在内地の不足米
に充つるとして、此價格を外米公様一石当り三十七圓と見
積る時は、四億八千一百万圓となる、右一千万石の輸出

米一石運賃共四十八圓に見積る時は、實に五億七千六百万圓
合計に於て十億五千七百万圓の大金となる、然らば右資本
金一切引去りても、總論に述べある如く十億圓近きの國富
を年々増すことは、さほど六ヶ敷いことではありませぬ。
斯る状態になりまして、如何に望んでも、貪乏せられん。
いづれありませぬ。
外國へ四五年後には、一千五百万石乃至五千
万石を繼續して輸出すること、が必ず出来る
大正十三年五月農商務省の調査を基礎として見ますと、朝
鮮に水陸田は百五十六万町歩あり、此總收穫一千万石
であり、内、水田は百五十六万町歩あり、水陸田は三十八万町
一石以内であり、又台湾に於て水陸田は三十八万町
歩あり、此田も水其他の關係上、陸田は三十八万町
万石位の收穫であり、以上合計、別は百九十四万町
歩であり、内、上田は約十二万町歩、別は百九十四万町

此收穫一反歩に付き二石六斗乃至三石八斗位之を平均す
 るときは、約三石二斗此石数三百八十四万石残余の被害田
 約百八十二万町歩は一反歩当り二石四斗、或は一石以内、甚
 しきは皆無の田もあり、此等を平年作とせしならば約九
 斗二升此石数一千六百七十四万四千石となる、之上田の
 收穫とを合計すれば二千四百八万四千石となる。
 右被害田も内地同様被害を受けざる様機械力を應用し、堤
 防並に井戸其他の設備を完備したるならば一反歩に付き上
 田同様三石二斗以上の收穫は得らるべしある、されば此
 收穫五千八百二十万石とすれば六
 千二百八万石となる。之と内地の上田被害田總收穫一億
 〇九百十六万石とを合計するときは、一億七千二百四十万
 石となる。内二千万石は、朝鮮台湾等の現在及増加人口の
 食糧に充つるときは、現一億五千二百四十万石あり。
 機械力に依るときは、現在の既成田にても、右の如き大收穫

を得らる、然し此被害田に機械及其他の設備をするには、
 前記八十万町歩の設備完成するのは即ち大正二十年とし
 て、公國残余被害田の設備は、恐くは十ヶ年間を要するもの
 と思ふ、されば右被害田の設備完成するは大正三十年、然
 ルども右輸出米五千万石は被害田に機械据付け初め即ち
 大正二十一年より一ヶ年に五百萬石と、前の輸出米一千万
 石と合せ一千万石、翌二十二年には二千万石、全二十
 三年には二千万石、其割合を以て行くときは、全二十八
 年には五千万石となる、然らば内地現在及増加人口を大正
 五十年迄に八千九百万人と見、一人一石一斗三升を要する
 とせば、一億五十七万石となる、故に輸出米五千万石は大正
 二十八年より全五十年迄引續き輸出することには出来ず
 が五十年後には増加人口の食米受け輸出米五千万石より
 減ずる譯である、然し開墾千拓したる田より續々收穫ある
 故に、右輸出米五千万石は大正二十八年より向百五十年間

繼續して輸出することが出来る。
 其後は増加人口の食米及び輸出米五千万石より年々減ず
 る譯けである。
 然し現在の既成田の内にも、機械力を應用して計算上引合
 はざる田は二三万町歩位あるならん、然し前記收穫は内輪
 に見積り置きしものなれば、右総收穫高の減ずる様は事
 決してない。

人口が二億八千を突破する
 も食糧には絶対心配なし

更に内地朝鮮台湾等の畑を田に直し、原野及び沼池を開墾
 干拓し、之に機械力を應用し機械力にて水の供給の出来ざ
 る田には、及別に適當なる井戸を掘り、其水を供給し、又堤防
 其他の設備を完全にした暁には、一億三千万石位の收穫を
 得ることには、左程六ヶ敷いことにはないと思ふ。此收穫を上
 記全國既成田の收穫と合計すれば、三億百二十四万石とな

る。

全國の現在人口が内地に六千万人、朝鮮に内地人とも千七
 百八十五万人うち内地人四十万三千人、台湾に内地人共三
 百八十五万人うち内地人十八万二千二人合計八千七百七十
 人あり、それらに年々増加するもの一ヶ年に百万人と見く、今
 より二百年を経過すれば二億万人之を現在の人口と合計
 する時は二億八千七十万となり、五千万と見ます。

内朝鮮及び台湾等に五千万人と見たものであるが朝鮮
 台湾人は現在にても重もに粟稗黍其他の物を常食として
 居る故に一一人当り米は一ヶ年に七斗位に過ぎず、されば此
 石数三千五百石となる又内地の人口二億三千七百七十
 人之に一人に付き一石一斗三升を要するとせば二億六千
 百八十二万一千石之と朝鮮台湾等の食米とを合すれば二
 億九千六百八十二万一千石となる、之を上記全國の総收穫
 より引去りても尚四百四十三万九千石の餘りがある。

さるばる人口が二億八千万を突破するも食米には絶対心
配するに及ばず。又輸出米五千万石は百五十年以上を継
續して外國へ輸出することが出来る。

右は國內に於て急し得る限りの計画に基く結果でありま
すが一方是れまゝ始終懸念せらるるところの滿蒙西比利更
等に於ての希望計画が都合よく併行進捗するならば、之よ
り得らるる生産も尠なからざることに、なり國家の總め大
なる仕合せと云ふべきであります。

被害田に機械力を應用して居る
箇所の收穫高視察の状況

被害田に機械力を應用して居る箇所を視察せしに、收穫多
き箇所は一反歩に付き三石乃至四石四斗、之等の田は肥料
の如きも一反歩に付き十石以上を施こして居る、且つ田の
手入も充分に行き届いて居る、又收穫少なき処にても二石
六斗を下りしことなし、之等の田は肥料一反歩に三斗内外

にして田の手入も行き届かざる様に思はるゝ、然し此の田
も肥料十斗以上を施こし田の手入も充分にしたならば、矢
張り三石乃至四石四斗位の大收穫は必ず得らるゝのであ
る。

又朝鮮の如きも機械力を應用し、堤防其他の設備を完全に
して、内地全様肥料を澤山用ひ田の手入も宜き所は三百四
斗位の收穫を得て居るが、肥料も充分に施こさず又手入も
悪しき所は二石位の收穫を得て居るが之等の田にも肥料
を充分に施こし手入も宜くしたならば三石四斗位の收穫
は得らるゝのである。

右被害田に機械力を應用せざる前は、旱魃降雨何れか被
害を蒙りては、豊作の年と云つても、一反歩當り二石不作の年
に至りては、八斗或は皆無のこともあり、之を平均すれば殆
んど一石三斗八升、又所によりは、豊作の年には二石六斗、
不作の年は一石五斗、之を平均すれば一石七斗、又朝鮮の如

きは肥料も充分に用いざるに付き、平年作にしたならば、何
ルも一反歩に付き一石以内である、何ルを見ても斯の如き
状態である。

今後不肖の説を實行したならば我邦は
忽ちにしく世界を凌ぐ大有福となる

今後不肖の説を實行し、外國へ輸出の道が開かると、相場を
一定して一石当り四十五円以上五十円位の値段を見る事
になりましたならば各位は大馬力を拭けて肥料及び田の
手入も充分に施す故に、一反歩より四石以上五石位迄の
大收穫を得ることには疑ひない、然るに入口が三徳万以上に
突破するも、食糧には何等心配することなし、又上記の輸出
米五千万石も二百年迄連続して輸出すること必す
出来るのであります。之を一石当り運賃共五十円と見積
る時は二十五徳円の大金となる此大金も輸出米同様二百
年迄連続して輸入が出来るのである、然るに我邦は

世界を凌ぐ大有福國となる。

パン食外人然日本米を食するに就て
輸入する大金の積蓄は不肖には出来ず

或人は五千万石の輸出米、何人の國人が食するかとの質問
とありました。が自分には英米佛等の諸外人と同居せしこ
とあり、彼等初めは多少臭ひを嫌ふ風あれども、食事数回之
に慣るれば、喜んで食ふのべからず、依て食否の事に
就ては、絶対に心配するに及ばず、又何人の國と雖ども食糧
問題に就ては、心配せざるに及ばず、今世に於て我邦
が僅五千万石位の食米を輸出したとて、今世に於て我邦
食の人間が八億も居ますから、其十日間位のものでありま
す。故に不肖の主張するが如く、一日も早く輸出の道を開
き、我産米をどしどし輸出せねばならぬ前に述べし如く、五
千万石を輸出するとし、一石当り運賃共五十円と見積ると
ときは、二十五徳圓となる之を黄金の目方に直しく一匁五

圓と見積る時は、驚く勿れ五十万貫目となるか、る大金を輸入すること、が政府並に農村各位の努力次第で立ち廻り出来る、又斯くの如き大金が我邦に二百年も継続して輸入すること、が出来ると思ひなば、政府は勿論農村各位も、如何にしても努力せしむるに居らるまいと思ひます、又改米各國外に、我邦に重なるに鉄及鉄に造りたる機械類、他の物品を持来り、黄金を持ち帰る、即ち鉄と金との交換なるを以て之に外國政府は大抵三割位の補助をし、居るとの語、故に我邦も米を輸出して黄金を輸入するは、即ち米と金との交換なるを以て、農村各位は時の政府より三割位の補助を得、たならば、輸出米(石)当り運賃共六十圓の値、後二十年も経過明かに想像が出来ます、然すれば五千万石に三十三億圓の大金となる。

そこ、右大金の元利の計算は、不肖には出来ざるに付き、此

積算だけは國民各位に御任せ申す。

一億五千万圓の食糧債券発行此債券は、國民生活及び國家の一大安定を計る最も大切な資本の債券である。

或人は貴下の帝國食糧問題解決の鍵に述べある説を見るに、八十万町歩の被害田に機械を据付け、及其他の費用全部に、純外米四百萬石を輸入する大けの代金を以て國家重大の食糧問題を解決し得るとあり、果しく解決し得るとし、ても、目下金融逼迫の折なれば、其財源を何処に求むる考へたりや、又四五年度の短日月を以て此の事業を如何にし、成し遂げ得るや、との質問でありました、が、それは不肖の説を政府並に農村各位が実行するならば容易に出来ると思ふ。今や我邦の食糧問題解決に就くは、實に事急なるを以て、國民一致擧つて解決せねばならぬ。

そこ、先づ資金を得るの方法として、は政府は國民の輿論

を問ひたる上に食糧債券を發行す、其債券一口金五円とし、
一ヶ年一千万枚宛三ヶ年間継続すれば一億五千万円とな
る、之を前に述べし被害田八十万町歩に機械力を應用す
る農村各位に限り貸出すときは立廻に成功すること疑ひ
なし。

食糧債券賣行此の債券は
十億圓以上三十億圓の大
金を年々輸入する大切な
る資本の債券である依て
賣行飛ぶが如し
又右食糧債券の賣行如何に就て却疑念あるやも知れざる
に付、聊か申上げます、其賣行に付ては少しも心配するこ
とないと思ふ、何んとなれば、右食糧債券は他の債券と異り、
國民生活及國家の一大安定を計り、且解決の暁には、十億圓
以上又十三年後には二十王億圓の大金を二百年近き迄継

續して我邦に輸入の出来る資本たる國家に採りては、實に
重大なる債券なれば、右債券の性質を國民に廣布す。
而して此債券は華族富豪に分割し負担せしむるか、又は全
國一や一枚宛負担せしむるか、其何れか適當の方法に頼ら
ば宜しからむ、当局の調査に據れば、朝鮮台湾樺太を除きた
る全國の戸数は現在一千一百二十万二千戸餘あり、之れ
に對し一戸一枚宛負担せしむる時は、一ヶ年五千六百十一
万圓となる、是を三ヶ年継続すれば、總額一億六千八百三十
三万圓餘の資本を得らる、計算である、依て何れにしても
此食糧債券賣行に就きては少しも心配することはない。
被害田八十万町歩に機械力を應用するに就て
短日月に機械力を應用するに就て
被害田八十万町歩に機械力を應用するに就て
如何にして成功し得るや否やの点につき懸案を述べます、
此事業は國家緊急の事なれば、懸圖しては居られぬ、

是非共短日月にて完了せねばならぬ、そのうするには、全國一
般の機械製造業者総掛りで從事せねばならぬ、此際縁故や
情実等を以て数人数個の個人又は會社に獨占せしむる様
な始息の事が行はるゝは、そのルコそ天下の一大事である、当
局者は此國家起倒の大事業に對し、極めて規模を雄大
にし、公平と熱誠とを以て事業に當らねばならぬ、但し機械
の品質價額並に能率等は、經濟上非常なる影響ある事なれ
ば、その設計製作につきは、監督を充分嚴正にして決しく
過失なき様注意を要するのべあります。現代は科學全盛
の時代であり、斯道に蘊蓄經驗のある學者を得る
に、決して六ヶ敷くないと思ふ、此等優秀なる人々を擢用し
て、各其位置に据へることが肝要と思ひます、かくしてこそ
始め、天下総掛りであり、そして始めて四五年の短期間に、
右被害田八十万町歩全部へ機械力を應用し得るのであります。

補助金一ヶ年に僅か一千三百五十万圓此補助は十
億乃至三十億圓の國富を年々増し行く大切なる
資本である

そこい被害田に機械力を應用さすに就て、最必要なるも
のは補助金である、何んとなれば前に述べし如く、八十万町
歩の被害田に、機械力を應用する其費用を計算するに、約一
億五千万圓に上る然るに旱魃降雨の年に被害を受け、目
下疲弊の絶頂に在る地方農村に於て斯の如き大金は如何
にしても出來るはづがない、故に右被害田八十万町歩に機
械力を應用する各位に對し、政府六割縣にても三割合計九
割の補助金を与へたならば、農村各位は喜び勇み大万歳を
唱へ、立処に被害田に機械力を應用し、そして一反歩に一石
以内の被害田より、忽にして二石六斗乃至四石四斗餘の大
收穫を得らるゝ様になることは、一点疑惑の餘地なきこと
を、不肖は茲に明言し置きます、尤も右補助金は十ヶ年に

割当ること。又或人は右補助金の賦源を如何にしてい得るやとの質問ありまし、たが、其ルは容易に出来ると思ふ、政府は内外債何ルに據るも、又他の方法に據るも宜しい、國民も亦勸迎するにあらう。何となれば、此の補助金は、國家堂大の食糧問題に速に解決するのみならず、実行したる其年より年々十億圓以上の國富も増し、尚近き將來には二十五億圓以上の大金を二百年近き迄繼續して我國に輸入する大切なる資本であるからである。然かも其補助金額は、僅に一ヶ年に十億圓五拾万圓位はありませんか。

被害田に機械力を應用すること一ヶ年後らす時は、補助金は被害田に機械力の百倍に相当する大損害を被る。政府は被害田に機械力を應用する農村各位に対し前記の補助金を是非とも与へらるたい、何となれば各位は金融の都合上機械の据付けを後らす中に、天候の具合で植付時か

植付後に於て、水の都合悪しき爲め、仮に一千町歩の田一ヶ年不作を蒙むり、皆無の状態に陥りし場合は、此損害實に甚大である。之を極く少なく見ても、百五十万圓位に上る。又右一千町歩に振付ける機械及び其他の代金は、箇所により、一六万圓乃至二十六万圓、之を平均すれば、約十六万圓、此金額に対し補助金は、政府六割、縣三割、合計九割とす。ルは十四万四千圓となる。之を前に述べしが如く、十ヶ年に割当るときは、一ヶ年分僅かに一万四千四百圓となる。サルは、上記の損害金百五十万圓あれば、右補助金の百ヶ年分は、相当する。又本年の如きは、純外米内地朝鮮台湾を合せ、約八百萬石近きを輸入せざるまい、此代金は三億萬圓に近きなる。と思ふ、此金利は震災後発行の外債利率と同様に、見ると額は、一ヶ年に金二十萬圓以上となる。然るに前記補助金年利を一千三百五十萬圓としたならば、右外米の代金に對する利子に比較し、約六百萬圓以上も少ない。三億萬圓に對する

んか。されば、何れの点より見るも、損得は斯の如く明瞭な
ル。政府は此際大英断を以て如何なる方法に依りてでも
五町歩以上の被害田に機械力を應用する農村各位に対し、
右九割の補助金を是非とも與へねばならぬと思ふ。
警く勿ル費用僅四千五百圓にて
被害田より五万二千石餘の大収穫を得たに就て
被害田に機械力を應用せし箇所を、大正十三年十四年に跨
がり視察せし結果を、参考とし一ヶ処大け此処に述べ置
く。
宮城縣亘理郡に田千三百町歩を有する達隈村と云ふ処が
あります。此村は早魃の年には、水不足の爲め二三分作或は
皆無の年もあり、又豊作と云つても二石位が関の山ぐ、其も
五六年に一度位であり、故に揚水機械の据付けの計画を始
めたのは、明治三十六年頃であつたやうです。其後度々凶作
に逢ひ、大正八年の早魃の際にも凶作に逢ひ遂に大正十二

年に至り漸くにして揚水機械を設置せしに、其年には一反
歩に付き三石二斗位の収穫があつたやうです。翌十三年に
は此地方は大早魃で、隣村は皆無又は二三分作の状態なり
しにも拘らず、同村は一反歩に付き平均四石、総反別に於て
合計五万二千石餘の大収穫を得たと云つて村民は喜んで
居りました。之を全八年の早魃に一反歩平均八斗即ち総計
反別に於て一萬四千石、之と全十三年の収穫と比較すれば、
其差四万一千六百石となる。之を全十四年七月相場一石
当り四十圓と見積る時は百六十六万四千圓の大金となる。
此大金は取も直さず揚水機械が生んだ賜のであります。
若しも、大正十三年の大早魃に此処に揚水機械がなかつた
ならば、全八年の早魃よりも被害甚しく一反歩に付き四斗
の収穫を得ること出来なかつたらうと云ふ話であります。
した、されば此價格は二百万圓以上であつて、実に驚くべき
大損害であります。

又此処に据付けたる揚水機械並に基礎工事其他一切の費用合せ六万圓にイ落成したるうです然かし此様の処許にはありません依て不肖は前に一千町歩に対する設備費用は六万圓乃至二十六万圓と述べ置きましたたが、前記設備費は此逢隈村を以て証明いたします、又本文に一千町歩の被害田に対し、機械の設備を一ヶ年後らすときは、その損害の莫大なることを述べ置きましたたが、之も前記の状況にイ了解せらるべきこと、思ひます。

此の如き損失は農村各位並に國家に及すのでありますから、政府は是非共五町歩以上の被害田に機械を据付ける各位に対し補助金を与へらることを切望します。

前記逢隈村の揚水機械は、大正十三年の大早魃には四十二昼夜運転し、その費用石炭代金二千二百圓、機関士火夫諸給その他消耗品費一切にイ二千三百圓、合計四千五百圓也を要せしとのこと、斯の如き僅なる費用を以て千三百余町歩

の田に給水して五万二千石の大収穫を得て居ります、右の費用を当時の米價によりて総反別に割り当つれば、一反歩の負担は八合五勺にし、収穫の方は一反歩当り四石であります、実に快い対照ではありませぬか。

企十四年の如きは、水の都合よかりし爲めに、植付け時に僅か四昼夜運転し、随て燃料及消耗品等は三百圓使用せしのみにて大豊作を得たとの事然れば被害田に機械力を應用さへすれば此様な仕合せの年もあります。

早魃降雨の年に被害を受ける田並に利用し得べき土地に就く

大正十三年の早魃に地方を視察せし結果を、参考として一部大け其状況を述べ置く。

宮城縣登米郡内に水不足の爲め、二三分作或は皆無の作毛を見たる田は、六千五百町歩餘ありました、又同郡内に、降雨の年に水害の爲め不作を蒙むりし田は、七百町歩位あり、又

畑を田に直ほし及び原野沿地を開墾干拓して、立処に上田
と存る土地は、五千八百町歩餘あり、右反別を合計すれば、一
万三千町歩となる。猶ほ同郡内に、揚水機械を据付けある
米山村は、此年に一反歩に付平均四石以上の大豊作を得たと
云つて、村民は大ニ喜んで居りましたが、仮に一反歩に四石
の収穫と見ても、一万三千町歩に五十二万石となる、又右
の土地は如何に開墾干拓及整理すると、機械力を應用せ
ざるば、唯の一反歩と雖、右様の大収穫は絶対を得ること能
はず、さるばる僅一郡にても、斯の如きの情況なれば、全國に亘
り、被害田並に開墾干拓すべき土地に就く前に、速べあるこ
とは、一点疑惑の餘地なきものであります。
猶ほ畑を田に直して畑の不足を生ずる場合は、高地に於て
如何にしても田にならざる土地は、全國到處に横はれり
此等の土地を開墾したならば、何百万町歩でも畑は出来ま
すから、決して心配するに及ばず。

古き名所 古き名所 信州 姨捨山 田毎の月に就て
の月、いま不肖はその名人口に會突する、信州 姨捨山の田毎
へるとその頃の田に付くがある、仰ぎ見上る高峰の半腹に、殆
んどその傾きに違するまで、石を築きくは僅かなる平地を
作り、致々に築き上たる大小千数百枚餘の田である、人の努
力が如何に恐るべきものであるか、我狭き日本國と云へど
も、斯の如き努力を致したならば、今後尚ほ幾何多数の反別
を得べきや、殆んど想像が出来ないほどである、而かも況
はんや、労少くして利用し得べき土地は、全國到處に澤山
ある。

生産と小作爭議

近年諸方に擡頭せるところの小作爭議が思想問題に關聯
するに云ふもの、畢竟するに是れは主として産額の少な
きことに基因するのべある、一反歩に僅か一石三斗や二石

位の収穫は、小作人も生活出来ず、地主としても経済が取
ルない、喧嘩は勿論よくないが、喧嘩の起るに無理と云へな
い事情もある、喧嘩の果ては田を打やつく、草を生やす、産額
は零となる、こんな事は軍に國家経済から見ても、由々敷大
事である。そこで機械力を應用して、旱魃降雨何れの年で
も、殆んど一定して、一反歩から三石以上四石四斗位までの
産額を得ることになれば、いまわしき争議の如きも消へ
なくなる譯である。

米價の公定に就て
米價が上ルは買人が因る、米價が下ルは農家が因る、が一体
諸物價に比較すれば、米價は常に廉價なりと思ふ、勿論買方
より云へば成るべく廉なる方が良ひに相違ない、然し國富
を増すべく、努力しつゝ、ある農村各位に對し、損失を負はず
譯けにもゆかず、さりとして買人に高くは賣ルず、又收穫多き
年には相場は下落す、然すれば農家は骨折り損のくたびれ

もうけとなる、斯くなるれば各位は國富を増すのに努力しな
くなる、然るときは國家に大損失を來たす故に政府は相方
共良き様此際大英断を以て、米の相場を民間に任せず、政府
に於て適當なる公定を願ひたいのであります。
併し不肖の主張するが如く我産米が外國へ一千五百万石
乃至五千万石を、年々輸出さるゝ事となつたならば、高低の
心配もなくなるのであります、故に輸出の道開くことを大
に急がねばなりません。

被害田に機械應用其他の事に就て注意

被害田に機械を据付けける場合は、揚水なれば田の総面積に
五昼夜乃至七昼夜位に、充分水を供給し得らるゝ、大けの
機械を据付けける事、尚ほ其附近の畑及原野沼地等を開墾干
拓し、田になり、その処あらば、見越して成るべく大なる
機械を据付け、その其年より、年々大豊作を得ながら開墾
助成法に依り補助金を得て開墾干拓整理する事は、國家並に各

位に採りては大なる得策ならん、又排水ならば総面積に大
降雨の一昼夜分の雨量を三昼夜位に排水をなすに適當
なる機械を据付ける事、機械は廻轉数の少なきものにしく、
水量多大なるもの、燃料僅少なるもの、保存年限成る可く永
く保つもの、取扱便なるもの、構造堅牢なるもの等を選んで
据付ける事。
食糧問題につきましても、色々の工夫論策が行は
れて居ます。海外移民は申すまでもなく、滿蒙西北利更等
に開墾地を設ける等の積極策や、豆粉ジャガイモ等の代用食
奨励や造酒を禁じて米の消費を節約する等の消極策やが
それであるかあります。併しながら永き習慣を更めることの難
事であるか申すまでもなく、有効な程度のことではありませ
ぬ。一方食糧の欠乏は焦眉の問題であり、海外移民や開墾
近な内地に於て而かも迅速に確実に成功の疑ひなき方法

即ち不肖の提唱する本篇記述の方法に據ること、今日に
起する最も適切な、最も賢明なると思ふのであります。

結論

以上述べ來りたる計画は、何事を差置いても其実行を急が
ねばならぬ。何しろ人口は年々八十八万人近きの増加を見
つ、あり、之を十年遷延するときは八百萬人近きの人口増加
であつて、その食糧は九百四十万石である、今日既に内地需用
に不足せるもの、一千万石、更に此九百四十万石の不足が加
はるならば、実に二千五百万石近い食糧の不足を生ずるのであ
る。今日内地朝鮮台灣何れも豊作の年と雖も内地に在りては
三百万石の純外米を輸入し居る處に、更に九百萬石の
輸入をよぎなくする時は、合計に於て千八百餘万石を輸入
て、又不作の年に於ては内地朝鮮に於て千八百餘万石を輸入
せねばならぬ之を運賃とも一石四十圓と見積るときは、七
德國の大金となる。現在貿易は年々少からぬ輸入超過に

若し加ふ事となつたならば、國家經濟は遂に破綻の外な
いのみありあろう。之は實に見透し得べき國家の前途である
外米あり飢餓の憂はないと見せ、晏然悠然此終に暮し得る
場合であるかどうか。為政者識者の熟慮を煩はしたいの
でありませう。
前に述べたる起債認可、補助金、低利資金貸出方、及食糧債券
発行並に特殊銀行貸出方に関するは、政府に於て規定を設
けらるゝ際に、成る可く其手續の簡單ならん事を希望致し
ます。
本年の如く、純外米八百萬石近きに對し支拂ふ処の唯一ヶ
年分の金額が有つたならば、被害田八十万町歩に必要の施
設を完備し、餘りがある一ヶ年分の輸入に對し仕拂ふ金
額の全部即ち二億八千万圓位を投づるならば、百二十三萬
町歩に機械を据付け得るの位である。そして前者は年々消

散し損失に歸するに對し、後者は第一年に於て其失費を回
収し、第二年後は全く無資本を以て年々多大なる國富を増
すのである。苟も計數の頭腦あるものならば深く考ふるま
ぐもあるまい。かゝる方策あるにも拘らず、之が実行に躊
躇し又はは阻害ありて行はざるならば、我日本は居ながら滅
亡を俟つ外のはない。前記不肖の説に據る時は、右様な小
資本を以て國民生活及國家の一大安定をも計るを得、且前
述の十億圓、又近き將來に於て二十五億圓の大金を年々必
ず輸入することが出来る。さすれば軍備擴張も意の如く
出來、如何なる重大事が突発するも、此富力と大和魂とを以
て之に當らば、總てに於て一点も驚くことはない。實に右
事業は、我國開闢以來の重大なる一大事業である。政府は
瞬時も捨て措くべきにあらざる、不肖は現下の國情に鑑み、邦
家の將來に憂懼禁じ難きの餘り、此最焦眉の急を感ずる食
糧問題の解決に關し、茲に絶叫の第一聲を揚げたる次第

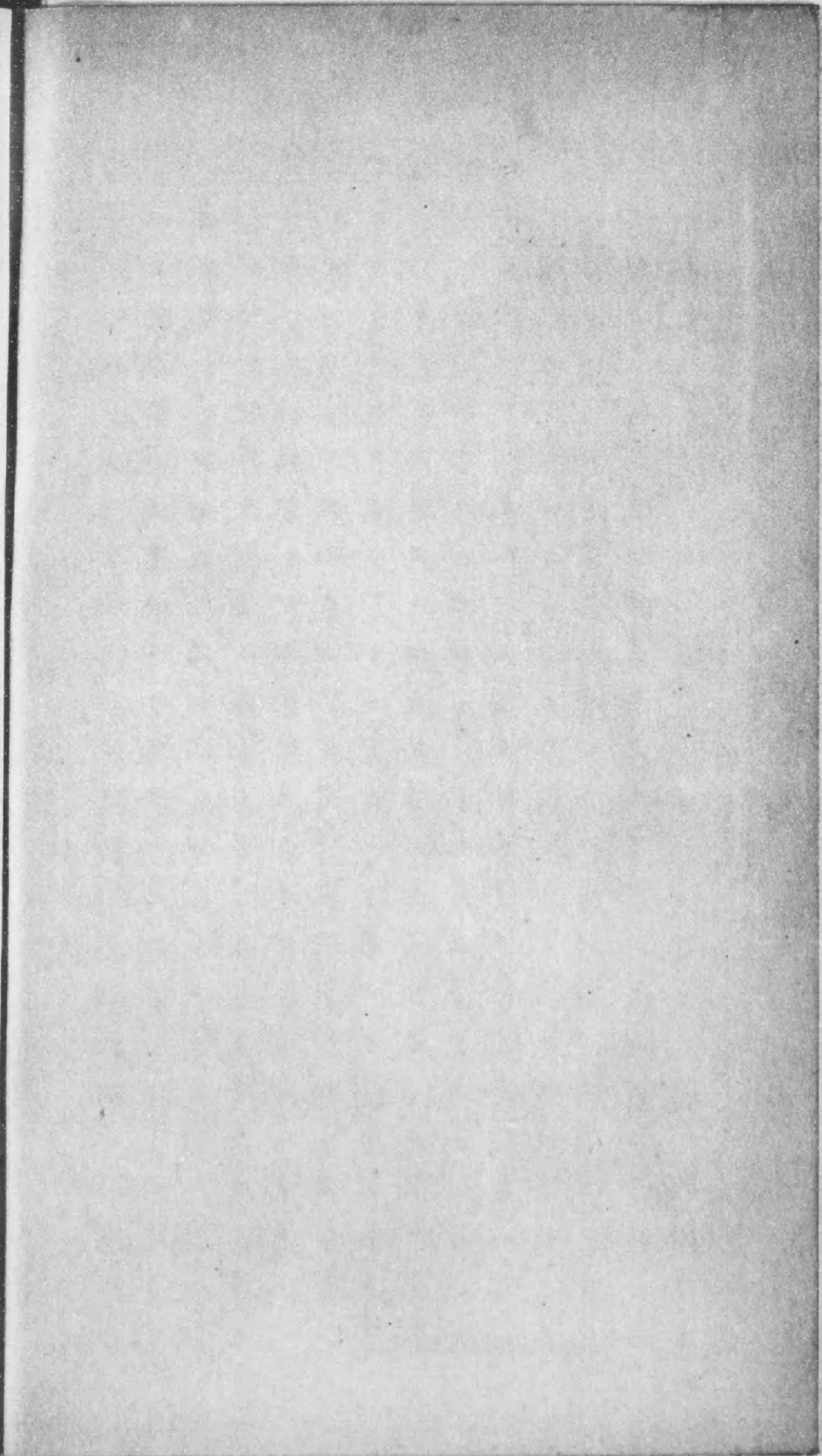
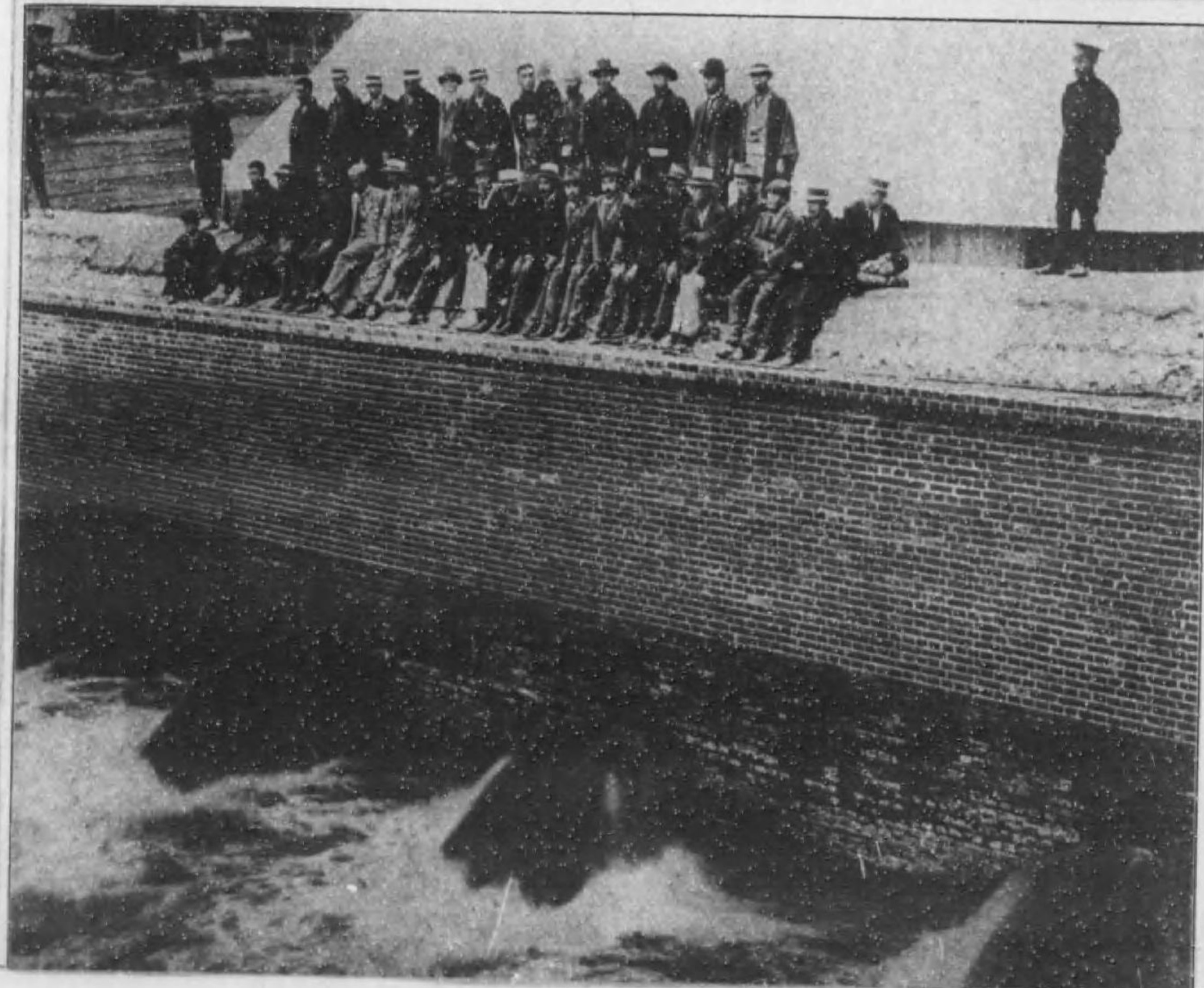
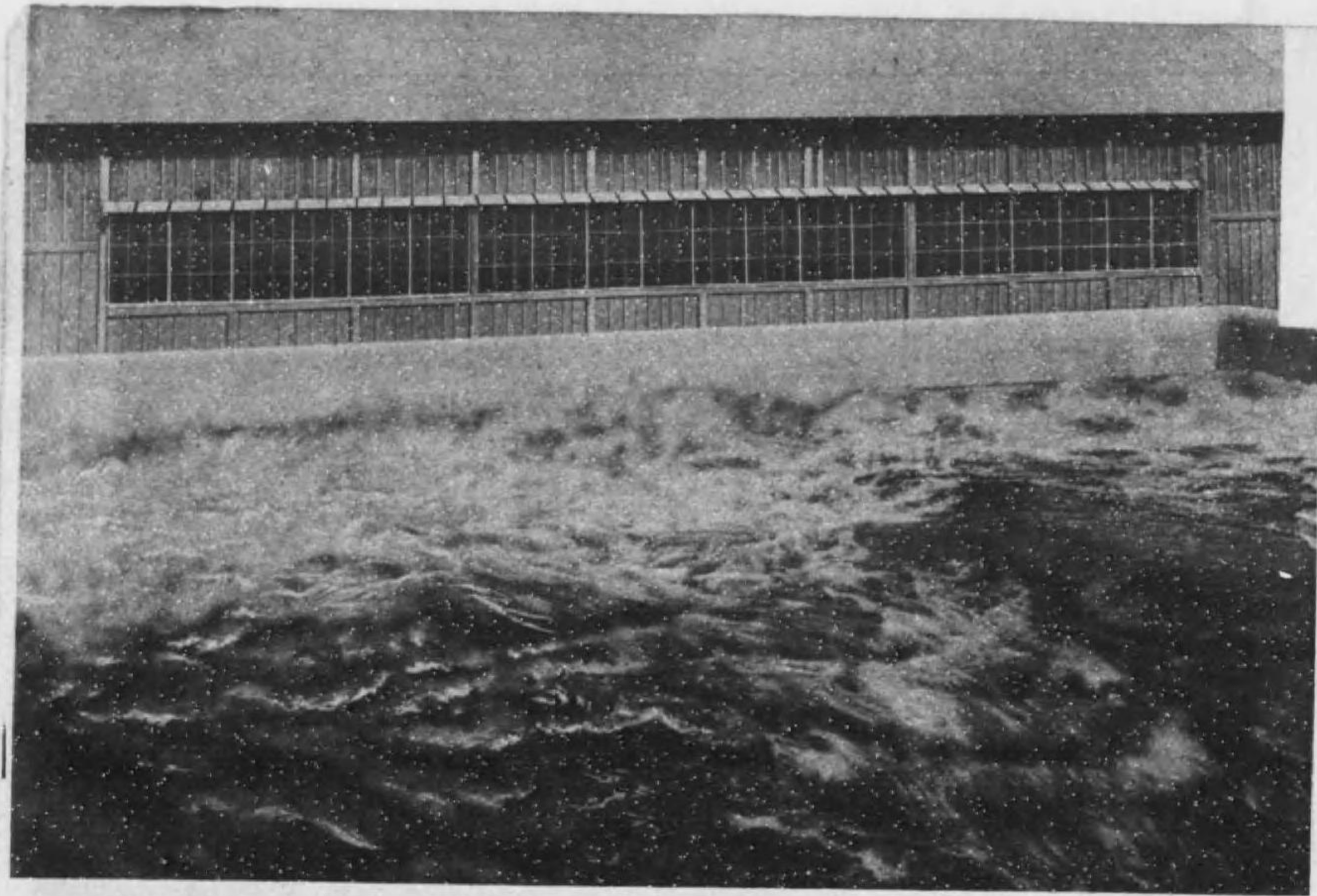
四八
であります。
銘を銀となし銅を金となす、机上の論争は不肖の閑せざる
処、但し此米穀増収の事実に関しは、皇天白日の下に大衆
に頼りて永く実験を経たるもの、一点疑惑の餘地なきこと
を附言し置くのであります。
本編に記述せる方法の實現に頼り、目下我國に於て重大な
る社會問題を形成しつゝある人口増殖難及失業者問題を
も亦立処に解決するを得て、治政上に益する処測るべから
ざるものありと云ふ可し、事苟も國家の大事であり一步を
緩うすれば即ち百歩を誤る、政府の賢明は直ちに此方法の
實現に賛助せられ、以て斯國家的大問題の解決に努力せら
るべきことは、確信し疑はざるものなり。
然ルども、本文に述べし事を、政府に実行さすに就ては國
民一般が擧つて政府に向つて要求せねばならぬ、依て不肖
は食糧債券発行及補助金等に就て、五十一議會に建議案と

して提出しました、右実行を一年後らす時は、國家に莫
大なる損失を來たす、而己ならず、目下重大なる人口増殖難
及失業者問題等に大なる影響を及ぼすが故に、五十二議會
には必ず成立実行せしめねばならぬ。
そこで繰返して申す、國民生活及國家の一大安定を計る
に就ては、一人一個の問題ではなく、實に國家國民全
体の重大問題でありまして、國家存亡の繫がるるところであ
ります。國民各位深く不肖の所説を考慮せられ、此擧の實
現に是非とも御賛同を願ふ次第であります。

第五十一議會閉會後より、人口食糧の問題が著しく朝野
の論議に上つて來たことは、不肖の慶びに堪へぬところ

五。
であり、まず、その方法の如何なるを問はず、一日も早く、此
食糧問題が解決の道に進まんことを切に冀ふ次第であ
ります、が今日迄発表せらるゝ方法は、悉く開墾を以て唯
一の方法とせられ居る様でありまして、不肖の着眼せ
る様な方法は別に発表を見ない様であります、不肖とし
ても開墾に異論はありませぬ、けれども此解決が非常に
急を要することから考へまして、開墾を考へて見まする
に、その生産も得るに至るまでには、少なからぬ年月を要
するのぐありまして、人口の増殖によりて自然に増大す
るところの消費額には追付くことが出来ぬ、それと一
方その経費の点も頗る多額を要するのぐあります。
當局者の対策として、本年五月六日の東京日々新聞紙上
に掲載せらるゝところを見ますれば、五十万町歩二十ヶ
年計画の予定費用は二億円即一反歩四十円の割となつ
て居りますが、果しそれにて成功出来るや否やは將來に

属し不明であります、そこで既往の成績を顧みますると
一般耕地整理実費平均は反当り約四十円を算せられ、内
地に於ける開墾の状況に於ては、反当り五百円千円と殆
んどその標準を得難い様な有様であります、最も工事も
簡單に且つ経費も少額で凡そに於て上出来であることも
られ、一反歩当り百六七十円となつて居ります、然れば不肖
の指導する既成田の改良設備が一反歩当り五円乃至二
十五円見当るに比較して少からぬ差いがあるのぐあり
ます、然かも既成田の改良設備は一地区毎に数ヶ月に
て竣功確實であつて、直ちに其年より増産を得るのぐあり
ります、目下緊急の場合先づ第一着に採るべき方法
であることを堅く信ずるところであります。



3147214	3145214	3148028	3147214	3147214
1111111	1111111	1111111	1111111	1111111
2000000	2000000	2000000	2000000	2000000
3000000	3000000	3000000	3000000	3000000
4000000	4000000	4000000	4000000	4000000
5000000	5000000	5000000	5000000	5000000
6000000	6000000	6000000	6000000	6000000
7000000	7000000	7000000	7000000	7000000
8000000	8000000	8000000	8000000	8000000
9000000	9000000	9000000	9000000	9000000

不肖は内地朝鮮支那等に亘りて被害を受けける田並に荒廢せし箇所を視察したる実績の一部を
参考として表面の三ヶ所を此處に述べ置く
表面の上畝は宮城県蔵野川沿を閣野千拓したる處であるが揚水面積に於て當分の議によ
ルに當時稅額最大のもありしこの事其揚水面積四千六百町歩排水面積千五百町歩合計六千町歩
全圖は右四十六町歩の田に揚水し居る處の實景であるが元池にせよ面積約八百町歩あり、此
不肖大正十三年秋當地方を視察せしに、此廣瀨川沿に汲ぐなく元池にせよ面積約八百町歩あり、此
水は既成田三千八百町歩に及ばず、故に秋の旱魃の年には水不足の爲め二三分作或は皆無
の年もあり、依りて此地方の農家は殆んど疲弊の極に達せり、如何にも致し難き處の有名なライオン知
事故森正隆氏は當時公縣知事たりし際、右池を機械力を用ひ早乾降雨何れの年と並被害を受けざ
の箇所一千五百町歩合せ六千町歩、之に機械力を用ひ早乾降雨何れの年と並被害を受けざ
る様設備を完全になしある故に、天候に大變動があつたや、早乾降雨何れの年と並被害を受けざ
り。又今年には地方古今未嘗有の大旱魃であつたや、早乾降雨何れの年と並被害を受けざ
付き、三石、二斗乃至四石、五斗、六斗、七斗、八斗、九斗、十斗の大収穫を得たに、二斗歩を有するに悦ん
表面の中畝は宮城県蔵野川沿を閣野千拓したる處であるが揚水面積に於て當分の議によ
据付て右機械を以て千二百町歩へ揚水して居る處の實景であるが、又今年には閣野千拓したる處
にく一反歩に二石六斗以上四石余の大収穫を得たに、二斗歩を有するに悦ん
表面の下畝は全縣登米郡南方村に、此面積三千六百町歩、然るに此近傍に道川と云ふ川あり、其川底が
壱したる箇處や、あるより、右町歩の内、大半は被害を受け、直ちに排水機械を施す、明治九年より大正二年迄
一歩たりし際、此處を視察せしに、其荒廢せしに驚き、直ちに排水機械を施す、明治九年より大正二年迄
荒廢したる箇所、年々得らるるもの、全畝を見一、疑念の余地なき事を知り、了り、解ありたし。
大収穫を得らるるもの、全畝を見一、疑念の余地なき事を知り、了り、解ありたし。
依りて本編に述べある右三ヶ所の収穫高を見一、疑念の余地なき事を知り、了り、解ありたし。

栽培面積、産額及段當収獲高、地方別

地方別	栽培面積				産額				段當収獲高			
	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
東神奈川 千葉城玉 茨埼	203857	198605	188317	181762	303016	312565	288824	304155	1495	1574	1534	1673
	311375	309106	304760	292256	459916	544592	448487	488090	1477	1762	1471	1670
	1182481	1183899	1176459	1157275	2045980	2053819	1962953	1726350	1732	1735	1669	1492
	1247836	1261830	1247378	1240205	1922583	1858731	1936444	1682987	1541	1473	1552	1357
	768431	771929	771541	764595	1118336	1190709	1281019	1299458	1455	1543	1660	1700
栃群 長山 静	892987	895174	896086	884263	1300899	1386398	1364106	1305009	1457	1549	1522	1476
	401189	404378	393073	389544	640862	700171	706381	606537	1597	1731	1775	1557
	700788	701591	697741	692972	1311794	1533628	1441389	1381925	1872	2186	2066	1994
	199371	199937	200496	201012	362189	438440	431904	448227	1817	2193	2154	2230
	663673	663790	657272	649481	1100944	1353623	1184402	1114425	1659	2039	1802	1716
愛岐滋三福	1016829	1015522	1006821	992842	1429740	2299350	1884276	2025343	1406	2264	1872	2040
	645113	645688	643995	642014	948355	1340080	1117708	1246280	1470	2075	1736	1941
	643227	640310	640620	638493	1276195	1477527	1253966	1501631	1984	2308	1957	1647
	751341	749159	745794	740741	1083954	1591876	1211130	1417646	1443	2125	1624	1914
	483270	482946	483286	484463	874889	1039787	904371	1017145	1810	2153	1871	2100
石富新福宮	542303	542806	543946	543983	1028370	1171644	1070343	1105026	1896	2158	1968	2031
	797396	797981	797638	797965	1374374	1644447	1535046	1678974	1723	2061	1924	2104
	1747730	1750926	1755309	1758825	3052402	3112051	3000055	3209366	1746	1777	1709	1825
	981398	982829	981895	982506	1476238	1643635	1585200	1581406	1504	1672	1614	1610
	857959	863197	864420	872935	1650398	1682061	1486057	1633620	1924	1949	1719	1871
山岩秋青京	902165	907683	914272	923414	1879190	1997286	1890717	2096764	2083	2200	2068	2271
	523075	528649	535220	543193	1094442	1062485	1042008	1065866	2092	2010	1947	1962
	1006933	1011004	1020386	1026658	1873040	1843383	1806460	2031723	1860	1823	1771	1979
	628956	619503	632574	635287	1026255	1066103	1035591	1063022	1632	1721	1637	1673
	438381	435576	431576	428972	760512	985317	771342	774578	1735	2262	1787	1806
大奈和兵團	524240	468027	482901	481734	1057190	1266413	1109423	947942	2017	2706	2297	1963
	321044	317899	314682	309723	660855	849122	722394	573648	2058	2671	2296	1852
	329233	328581	326190	323625	555674	754229	557821	612687	1688	2295	1710	1893
	1091018	1084378	1083577	1069143	2221782	2586801	2101026	2067283	2036	2386	1939	1934
	886656	881313	880458	864135	1697763	1882720	1600649	1485398	1915	2136	1819	1719
廣山鳥島德	766440	766276	765710	758924	1374000	1393287	1186502	1198810	1793	1818	1550	1580
	790842	782863	778923	773101	1461055	1408143	1279788	1380920	1847	1799	1643	1786
	339377	340521	340617	336235	643711	797985	583353	720588	1896	2343	1713	2143
	568024	566028	564907	565663	964643	1053274	883121	1029650	1698	1861	1563	1820
	306440	301074	297006	294294	523069	575736	418476	549733	1710	1912	1409	1868
香愛高長佐	386147	386891	386796	386450	862795	911404	876391	853022	2234	2356	2266	2207
	475214	472954	470981	465635	964821	1038444	960551	941545	2030	2196	2039	2022
	379595	378634	379309	380490	631864	682767	610617	641875	1664	1803	1610	1687
	338413	337016	337239	339142	560601	531896	540692	475905	1674	1574	1603	1403
	531010	530463	529602	528218	1163299	1149765	1201307	1217889	2191	2167	2268	2306
福大	1128135	1127467	1126845	1121000	2263302	2364964	2279012	2363511	2006	2098	2022	2108
	571163	577222	582345	583109	1084000	1101320	98926	1090642	1564	1908	1700	1850

		大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
東千代 奈川葉城玉	奈川葉城玉	20385.7	19860.6	18831.7	18176.2	30301.6	31256.5	28882.4	30415.5	1.495	1.574	1.534	1.673
		31137.5	30910.6	30476.0	29225.6	45991.6	54439.2	44848.7	48809.0	1.477	1.762	1.471	1.670
		118248.1	118389.9	117645.9	115727.5	204598.0	205381.9	196295.3	172635.0	1.732	1.735	1.669	1.492
		124783.6	126183.0	124737.8	124020.5	192258.3	18587.31	193644.4	168298.7	1.541	1.473	1.552	1.357
		76843.1	77192.9	77154.1	76459.5	111833.6	119070.9	128101.9	129945.8	1.455	1.543	1.660	1.700
栲群長山靜	木馬野梨岡	89298.7	89517.4	89608.6	88426.3	130089.9	138639.8	136410.6	130500.9	1.457	1.549	1.522	1.476
		40118.9	40437.8	39307.3	38954.4	64086.2	70017.1	70638.1	60653.7	1.597	1.731	1.775	1.557
		70078.8	70159.1	69774.1	69297.2	131179.4	153362.8	144138.9	138192.5	1.872	2.186	2.066	1.994
		19937.1	19993.7	20049.6	20101.2	36218.9	43844.0	43190.4	44822.7	1.817	2.193	2.154	2.230
		66367.3	66379.0	65727.2	64948.1	110094.4	135362.3	118440.2	111442.5	1.659	2.039	1.802	1.716
慶城滋三福	知草賀重井	101682.9	101552.2	100682.1	99284.2	142974.0	229935.0	188427.6	202534.3	1.406	2.264	1.872	2.040
		64511.3	64568.8	64399.5	64201.4	94835.5	134008.0	111770.8	124628.0	1.470	2.075	1.736	1.941
		64322.7	64031.0	64062.0	63849.3	127619.5	147752.7	125396.6	150163.1	1.984	2.308	1.957	1.647
		75134.1	74915.9	74579.4	74074.1	108395.4	159187.6	121113.0	141764.6	1.443	2.125	1.624	1.914
		48327.0	48294.6	48328.6	48446.3	87488.9	103978.7	90437.1	101714.5	1.810	2.153	1.871	2.100
石富新福宮	川山瀧島城	54230.3	54280.6	54394.6	54398.3	102837.0	117164.4	107034.3	110502.6	1.896	2.158	1.968	2.031
		79739.6	79798.1	79763.8	79796.5	137437.4	164447.7	153504.6	167897.4	1.723	2.061	1.924	2.104
		174773.0	175092.6	175309.9	175882.5	305240.2	312051.1	300005.5	320936.6	1.746	1.777	1.709	1.825
		98139.8	98282.9	98189.5	98250.6	147623.8	164363.5	158520.0	158140.6	1.504	1.672	1.614	1.610
		85705.9	86319.7	86442.0	87293.5	165039.8	168206.1	148605.7	163362.0	1.924	1.949	1.719	1.871
山岩秋青京	形手田森都	90216.5	90768.3	91427.2	92341.4	187919.0	199728.6	189071.7	209676.4	2.083	2.200	2.068	2.271
		52307.5	52864.9	53522.0	54319.3	109444.2	106248.5	104200.8	106586.6	2.092	2.010	1.947	1.962
		100693.3	101100.4	102038.6	102665.8	187304.0	184338.3	180646.0	203172.3	1.860	1.823	1.771	1.979
		62895.6	61950.3	63257.4	63528.7	102625.5	106610.3	103559.1	106302.2	1.632	1.721	1.637	1.673
		43838.1	43557.6	43157.6	42897.2	76051.2	98531.7	77134.2	77457.8	1.735	2.262	1.787	1.806
大奈和兵團	阪良山庫山	52424.0	46802.7	48290.1	48173.4	105719.0	126641.3	110942.3	94794.2	2.017	2.706	2.297	1.963
		32104.4	31789.9	31468.2	30972.3	66085.5	84912.2	72239.4	57364.8	2.058	2.671	2.296	1.852
		32923.3	32858.1	32619.0	32362.5	55567.4	75422.9	55782.1	61268.7	1.688	2.295	1.710	1.893
		109101.8	108437.8	108357.7	106914.3	222178.2	258680.1	210102.6	206728.3	2.036	2.386	1.939	1.934
		88565.6	88131.3	88045.8	86413.5	169776.3	188272.0	160064.9	148539.8	1.915	2.136	1.819	1.719
廣山島島德	島口取根島	76544.0	76627.6	76571.0	75892.4	137400.0	139328.7	118650.2	119881.0	1.793	1.818	1.550	1.580
		79084.2	78286.3	77892.3	77310.1	146105.5	140814.3	127978.8	138092.0	1.847	1.799	1.643	1.786
		33937.7	34052.1	34061.7	33623.5	64371.1	79798.5	58335.3	72058.8	1.896	2.343	1.713	2.143
		56802.4	56602.8	56490.7	56566.3	96464.3	105327.4	88312.1	102985.0	1.698	1.861	1.563	1.820
		30644.0	30107.4	29700.6	29429.4	52306.9	57573.6	41847.6	54973.3	1.710	1.912	1.409	1.868
杏愛高長佐	川候知崎賀	38614.7	38689.1	38679.6	38645.0	86279.6	91140.4	87639.1	85302.2	2.234	2.356	2.266	2.207
		47521.4	47295.4	47098.1	46563.5	96482.1	103844.4	96055.1	94154.5	2.030	2.196	2.039	2.022
		37959.5	37863.4	37930.9	38049.0	63186.4	68276.7	61061.7	64187.5	1.664	1.803	1.610	1.687
		33841.3	33701.6	33723.9	33914.2	56060.1	53189.6	54069.2	47590.5	1.674	1.574	1.603	1.403
		53101.0	53046.3	52960.2	52821.8	116329.9	114976.5	120130.7	121788.9	2.191	2.167	2.268	2.306
福大熊宮鹿	岡分本崎島	112813.5	112746.7	112684.5	112100.0	226330.2	236496.4	227901.2	236351.1	2.006	2.098	2.022	2.108
		57116.3	57722.2	58234.5	58310.9	106494.9	110133.9	98992.6	107864.2	1.864	1.908	1.700	1.850
		84013.5	84734.1	83882.3	83989.1	163906.0	158593.5	150098.9	162116.4	1.951	1.872	1.789	1.930
		51053.6	50974.5	51018.5	51260.3	86558.8	93801.7	82548.6	84442.4	1.695	1.840	1.618	1.647
		75287.0	75597.8	76026.4	76328.0	113293.9	115329.7	102519.4	101291.3	1.505	1.526	1.348	1.322
北冲	海道	90515.9	101797.9	111715.5	119892.7	139775.0	128488.9	148818.6	169665.8	1.544	1.262	1.332	1.415
		6887.1	6780.4	6522.4	6415.5	7295.6	5371.5	6300.6	5082.3	1.059	0.792	0.966	0.789
計		3134862.6	3141146.7	3147561.4	3142514.4	5518053.9	6069385.0	5544408.9	5717041.3	1.760	1.932	1.761	1.819

233
161

大正十四年七月十八日初版印刷
大正十四年八月十八日初版發行
大正十五年五月二十八日再版印刷
大正十五年六月十八日再版發行



【非賣品】

東京市牛込区新小川町二丁目八番地
著者 村本 庄次郎
發行者 食糧問題解決期成會
日本 電話牛込三〇五四番

A very faint, large table with multiple columns and rows of illegible text, possibly a ledger or inventory list.

終

